

令和6年度みんなで参加！パラスポーツステップアップ事業  
共生スポーツ大会 「ボッチャ競技」  
競 技 規 則

1 競技部門

- ・ チーム戦の部（1チーム 3名編成：交代要員1名を含む4人編成でもよい）
- ・ ペア戦の部（2人一組：交代要員は認めず、試合中に1名の選手が出場不可となった場合、その後の試合は1名の選手のみがカラーボール6球を用いて試合を行い、2名とも出場不可となった場合は不戦敗とする）
- \* チーム戦・ペア戦とも、その編成における座位・立位及び障がい者・健常者の人数制限、性別の制限は設けない。

2 参加資格

- ① 宮崎県内在住者であること。
- ② 参加者の年齢は小学生以上であること。
- ③ チーム及びペアの編成における性別の制限は設けない。（男女混合も可）
- ④ 大会当日、全ての競技日程に参加できる者。（当日の体調不良などの場合を除く）

3 試合運営上の規則

- ① 試合開始前のチーム(ペア)の招集
  - ・ 選手、競技アシスタント(ランプオペレーターを含む)は、前の試合の終了時まで、コート付近に集合すること。
  - ・ 第1試合と午後の部最初の試合は、本部が定めた時間までの集合とする。
- ② 試合開始前に各チーム(ペア)の代表が、審判によるコイントスにより、先攻・後攻のいずれかを選択する（先攻側が赤ボール、後攻側が青ボール）
- ③ 対戦相手が使用するマイボールチェックについてはこれを行わず、審判による目視でのボールチェックとする。（ただし、審判が必要と判断した場合は、審判がボールに触れてのチェックを行う場合がある。）
- ④ 選手側から見て、左端のスローイングボックスが1番ボックス、右に向かって2番、3番と続き、右端が6番ボックスとなる。
  - ・ チーム戦：先攻の赤ボールのチームは、1番・3番・5番ボックスに入る。  
後攻の青ボールのチームは、2番・4番・6番ボックスに入る。
  - ・ ペア戦：先攻の赤ボールのペアは、2番・4番ボックスに入る。  
後攻の青ボールのペアは、3番・5番ボックスに入る。
  - ・ どのボックスにどの選手が入るかは、各チーム(ペア)がきめる。
  - ・ 試合途中での選手のボックス変更は認めない。
- ⑤ 選手一人当たりの使用できるカラーボールの球数は以下とする。
  - ・ チーム戦：2球（チームの合計カラーボールは6球）
  - ・ ペア戦：3球（ペアの合計カラーボールは6球）
  - ・ 上記の使用できる球数は、投球練習時も適応する。
- ⑥ 試合開始前に2分間もしくは双方のチーム(ペア)がすべてのボールを投げ終わるまでの投球練習を認める。一度投球したボールを回収しての練習の続行は認めない。（ジャックボールを含めた7球の投球練習だが、双方のチームとも大会球を使用する場合は、カラーボールのみの6球とする。）

- ⑦ チーム戦・ペア戦とも、各ゲーム4エンドとし、エンド時間は6分とする。
- ・ 時間の計測は、審判が投球を指示して計審にパドルを示した時点で開始され、投球されたボールが停止するかラインを越えた時点で終了する。
  - ・ 持ち時間の6分が経過した時点で投球されていないボールは無効ボールとなり、リトラクション(除去・回収)される。
- ⑧ 投球の指示について
- ・ 審判が該当するカラーのパドルを示して投球を指示するまで、ボールの投球をしてはいけない。指示がない状態で投球されたボールは無効投球となり、リトラクションされる。
- ⑨ ジャックボールの投球について
- ・ 投球の順番は以下の順とする。  
1 エンド：先攻（赤） 2 エンド：後攻（青）  
3 エンド：先攻（赤） 4 エンド：後攻（青）
  - ・ どの選手がジャックボールを投球するかは、各チーム(ペア)で決めてよい。ただし同じゲーム内において、同じ選手がジャックボールを2回以上投球することは認めない。ペア戦において、ジャックボール投球時に無効投球やヴァイオレーション(反則)が発生した場合とペア戦において1名が試合続行不可となった場合を除く。
  - ・ ジャックボールはVラインを越えなければならない。ラインに触れていた場合は超えていないとみなされる。エンドラインやサイドラインに関しては越えてはならない。ラインに触れている場合は越えたとみなされる。その場合、そのエンドのジャックボールの投球権は相手側に移る。
  - ・ ジャックボール投球時に、⑩に記載されているヴァイオレーション(反則)が発生した場合も、投球権は相手に移る。
- ⑩ カラーボールの投球について
- ・ ジャックボール投球後のカラーボール投球は、ジャックボールを投球した選手が行い、次のカラーボールは相手チーム(ペア)の選手が行う。この場合、チーム(ペア)のどの選手が投球するかは、各チーム(ペア)が決めてよい。その後のカラーボール投球についても同じとする。
  - ・ 3球目以降のカラーボールの投球は、ジャックボールより遠い方が投球を行う。(その順番は審判が決定し、選手に伝える)
  - ・ いずれかのチーム(ペア)が全てのカラーボールを先に投げ終えた場合、その後は相手側が投球を続ける。
  - ・ 残りのカラーボールを投げないと選択した場合、残球はリトラクション(除去・回収)される。
- ⑪ 投球したカラーボールがスローイングボックスフロントラインを越えなかった、または触れた位置で止まった時、サイドライン及びエンドラインに触れた、または越えた場合、アウトボールとしてリトラクション(除去・回収)される。
- ⑫ エンド途中にジャックボールが弾かれてアウトボールとなった場合、ジャックボールはクロスに置かれて試合を再開する。その状態でジャックボールより遠いボールの側からの投球となるが、同距離の場合はジャックボールをはじいた側が同距離の状態がなくなるまで投球する。
- ⑬ エンド終了時にジャックボールに最も近いボールを投球した側がそのエンドの勝者となり、ジャックボールに最も近い相手ボールの距離より近くに入った球数が、1球につき1点の得点となる。双方のカラーボールがジャックボールと同距離だった場合、それらのボールはすべて得点となる。

- ⑭ 4 エンドの総合得点により、得点の多い側がその試合の勝者となる。同点だった場合は引き分けとする。
- ⑮ チーム戦における選手の交代は、エンド間に審判の許可を得て行うものとする。エンドの途中での交代は認めない。ただし、体調不良等により投球が続行できなくなった場合を除く。
- ⑯ 以下の行為はヴァイオレーション（反則）となり、投球されたボールまたは以下に示すボールはリトラクション（除去・回収）される。全てにおいて、相手側のペナルティースローは行わない。ジャックボール投球時については、その投球権が相手側に移るのみとする。
- ・ 投球時（投げる瞬間）に、選手やランプオペレーターの体や衣類の一部、車椅子の車輪等の一部、ボックス内に持ち込んだボールや用品が、スローインボックスのラインに触れていた場合。
  - ・ 相手の投球時間にチーム（ペア）の選手同士で話し合う、またはボールを揉む、狙いを定めるとみられる動きをするなどの投球準備を行った場合、当該選手のボールはリトラクションされる。話し合うなど当該選手の特定が困難な場合は、そのチームのキャプテンがどの選手のボールをリトラクションさせるかを決める。
  - ・ 相手の投球時間に相手の投球に影響するような言動、行動があった場合、1 球リトラクションされる。（投球に影響の判断は審判が行う）
  - ・ 選手が投球後のボールにランプオペレーターの体や衣服の一部が触れた場合。
  - ・ ランプオペレーターがエンド中にコートの方を見たり、選手にアドバイスしたり、選手の指示がないのに投球準備につながる動きをした場合、1 球リトラクションされる。